

群 教 ゼ	G09 - 02
	平 16.221集

英語で自分の思いを伝えようとする 態度を育てる指導の工夫

- KJ法的な発想を取り入れたスピーチ活動を通して -

特別研修員 黛 ゆかり（妙義町立妙義中学校）

《研究の概要》

本研究は、KJ法的な発想を取り入れてスピーチ原稿を作成し発表する活動を通して、英語で自分の思いを伝えようとする態度を育てることを目指したものである。まず、提示された大テーマから、類似した題材を選んだグループでカードに英文を書き、そのカードを寄せ集め、並べるなどして作成した原稿を発表した。更にカードを用いて改善した原稿を発表し、最後には、自分の考えや意見を入れた原稿に仕上げ、スピーチを行った。

【キーワード：英語 - 中 KJ法 英文カード スピーチ活動 自分の思い】

主題設定の理由

国際社会といわれる今日、私たち日本人は、これまで以上に世界に目を向けるとともに、その中での日本の立場や役割を知ることが必要になってきている。また、外国人と対等にコミュニケーションを図れる人材、さらには国際的な舞台で活躍できる人材も求められている。そこで、国際的に広く使われている英語によって、自分の考えや意見を堂々と表現できるようになることは、重要な課題の一つであると考えられる。学習指導要領においても、「自分の考えや気持ちなどが聞き手に正しく伝わるように話すこと」と掲げ、互いに「考えや気持ちなど」を述べ合うことの必要性をうたっている。したがって、英語の活動を通して、自分の思いを伝えようとする態度の育成は、これからの国際社会を担う生徒たちに求められるものと考ええる。

さて、本研究対象生徒は学力で均等に分けられた少人数クラスの2年生であり、実態調査によると、英語でのスピーチ活動に消極的な生徒が多く見られる。この主な理由としては、英作文に対する苦手意識と発表に対する苦手意識の2点が挙げられる。しかし、ほぼ全員の生徒が、英語を話せるようになりたいという願望をもっており、スピーチで、「自分の考えや気持ちを心をこめて言うことができるようになりたい」などと考えている。

これまでの英語の授業では、与えられた文を全員で反復練習するなどの一斉活動が多く、テーマを決めて感想を述べ合うなど、生徒が自分で思っていることを伝える活動が不十分であった。生徒が伝えたいことを自信をもって自分らしく表現できるようにするため、スピーチ原稿作りの方法を工夫し、発表の回数を重ねていく必要があると感じる。

そこで本研究では、原稿の案となる英文を書いたカードを仲間とともに出し合い、まとめていくという、KJ法的な発想を取り入れたスピーチ原稿作りをしながら、発表できるようにする。生徒は、仲間とともに原稿を練ることで安心感をもつため、発表に対する抵抗感を和らげられると考える。また、段階的に自分の思いを追加していくスピーチ発表を重ねながら、自分らしいスピーチができるようになると思える。

具体的には、提示された大テーマをもとに、スピーチの題材にしたいことを個々の生徒が一枚のカードに書き、同じような題材を選んだ生徒による小グループを作る。そしてグループ内で、スピーチで伝えたいことを、個々に思いつくまま一つの英文でカードに書いていく。グループ内でカードを集め、文の関連性を見出し、段落を考えながらカードを並べたり、必要な単語や文を付け足したりしながら原稿を作成していく。原稿はまず、テーマの異なるペアの生徒同士でのスピーチ活動に用いられる。その後、更にグループで改善され、テーマの異なるグループの生徒同

士でのスピーチ活動に用いられる。生徒はこれらの過程を経て、英語でスピーチすることに慣れていくと考える。最終的には、個々が自分の考えを明確にした原稿を作成し、自分の思いを自分らしく全体の前で発表できると考える。

以上のことから、KJ法的な発想を取り入れて原稿を作成し、段階的な発表の場を設けることで、英語で自分の思いを伝えようとする態度が育てられると考え、本主題を設定した。

研究のねらい

英語を話す活動において、KJ法的な発想を取り入れたスピーチ活動を行えば、自分の思いを伝えようとする態度が育つことを明らかにする。

研究の見通し

- 1 基本の過程において、テーマに関する英文の資料を参考にしながら、KJ法的な発想を取り入れて原稿を作成し、テーマの異なるペアの生徒同士でスピーチ活動を行えば、良い点や課題に気づき、英語でスピーチすることに興味をもって取り組むようになるであろう。
- 2 応用の過程において、再度英文を出し合いKJ法的な発想を取り入れて原稿を改善し、テーマの異なるグループの生徒同士でスピーチ活動を行えば、伝えたい内容や表現方法に着目でき、英語でスピーチすることに意欲をもって取り組むようになるであろう。
- 3 発展の過程において、内容を深め、自分の考えをより明確にするために、他からの異なるテーマの原稿を参考にして、KJ法的な発想を取り入れて原稿を完成し、全体の前でスピーチ活動を行えば、考えや意見、気持ちに注目でき、自信をもって、英語で自分の思いを伝えようとする態度が身に付くであろう。

研究の内容と方法

1 研究の内容

(1) 英語で自分の思いを伝えようとする態度について

「英語で自分の思いを伝えようとする態度」とは、生徒が英語で自分の考えや意見、気持ちを、自分らしく話そうとする態度であるととらえた。具体的には、既知の単語や言語材料をできるだけたくさん用い、体全体を用いるなどしながら、何とか相手に伝わるように工夫しようとする態度と考えた。原稿に対しては、人それぞれの解釈や思いがあり、英文の意味を考えながら、感情をこめたスピーチをすることで、聞き手に感動を与え、共感をよぶスピーチになると考える。ただし、スピーチにおいては、自分の思いを伝えるという点を重視するので、細かい文法的な英文の誤りについてはこだわらないようにする。生徒一人一人が自分のスピーチに自信をもつことで、英語で自分の思いを伝えようとする態度が育成されると考える。

基本、応用、発展それぞれの過程における具体的な生徒像として次の3点を挙げる。

スピーチのよかった点や課題に気づくことで、英語でスピーチできることを自覚し、英語でスピーチすることに興味をもって取り組む生徒。

英語でよりよくスピーチしたいと考え、内容や表現を吟味、改善しながら英語でスピーチすることに意欲をもって取り組む生徒。

自分の考えや意見、気持ちを聞き手が十分に理解できるように、心をこめ自信をもって英語でスピーチし、自分の思いを伝えようとする生徒。

(2) KJ法的な発想を取り入れたスピーチ活動について

KJ法とは、ブレン・ストーミングなどで出されたアイデアや意見を、一枚ずつ小さなカードに書き込み、似たような内容または関連性のあるカードをグループ化していく。その際、模造

紙などの上で配置をしながら、グループ同士の関係に意味づけをしたり関連性を読み取ったりしていく。最初は小さなグループがいくつもできるが、段階的に大きなグループ化を目指して図解していく方法で、構造化された問題から解決策を考えていく発想法である。

本研究における「KJ法的な発想」とは、カードをグループ化するというKJ法の手法を英文のスピーチ原稿を作成する際に取り入れることである。具体的には、まず、教師側から提示された大テーマから自由な発想で思いつく単語を、個々の生徒が一枚のカードに書く。次に、全員のカードを黒板に貼り、関連するカードをグループにし、そのグループにスピーチのテーマとなるタイトルを付ける。タイトルを同じくする生徒が集まって原稿を作成していくことになる。原稿作成時には、教師から与えられたテーマに関する英文資料を参考に、個々にスピーチで伝えたいことを小さな間違いを恐れず自由に一つの英文でカードに書いていく。そして、グループ内でカードを寄せ集め、関連を見て段落を作ったり、段落内でカードを並べ、更に文や単語を付け足したりしながら、まとまりのある文章にしていく。このようにして、生徒が自分の考えや意見、気持ちを書いた英文のカードを持ち寄り、グループで検討し作成していくスピーチ原稿には個々の思いが入っていくと考える。なお、仲間と共に原稿を作成しながら自分の思いを伝えるという過程を経て、最終的には個々が英文カードを用いて、さらに自分の考えや意見を明確にした原稿を作成しスピーチできるようになることを目指している（資料編参照）。

2 研究の方法

研究の見通しに基づき、次のような方法で授業実践を行い、検証する。

(1) 授業実践計画

時期	平成16年10月下旬～11月上旬	教科	外国語（英語）
対象	妙義町立妙義中学校 2年2組英語D組 男子6名 女子7名 計13名		
題材名	クリスマスを語ろう！	時間	10時間

(2) 抽出生徒について

A男	理解力は優れているが、自分の考えなどを表現することには消極的であり、英語のスピーチでは長い文章を作ることに苦手意識をもっている。仲間とともに原稿を作る活動をする際、小さな間違いを恐れず思いつく英文をできるだけたくさん出すことの大切さを指摘しながら、英文を作ってスピーチすることに自信をもたせたい。
B男	英語で表現することは楽しいと感じているが、理解力不足のため英文の組み立てや発音を難しいと感じている。原稿を仲間とともに作る際に、伝えたいことを引き出せるよう助言したり、努力した点を認め励ましたりしながら、自分なりの表現を工夫しながらスピーチできるようにしたい。

(3) 検証計画

検証項目	検証の観点	検証方法
見通し1	基本の過程において、クリスマスに関する英文資料を参考にして、グループで英文カードを並べるなど、KJ法的な発想を取り入れて原稿を作成し、テーマの異なるペアの生徒同士でスピーチ活動を行うことは、良い点や課題について気付き、英語でスピーチすることに興味をもって取り組むために有効であったか。	・観察（活動の様子） ・アドバイスシート ・振り返りシート
見通し2	応用の過程において、内容をより充実させるために、英文カードを付け足すなど、KJ法的な発想を取り入れて原稿を改善し、テーマの異なるグループの生徒同士でスピーチ活動を行うことは、伝えたい内容や表現方法に着目でき、英語でスピーチすることに意欲をもって取り組むために有効であったか。	・観察（活動の様子） ・アドバイスシート ・振り返りシート
見通し3	発展の過程において、内容を深め、クリスマスについての自分の考えを明確にするために、他グループの異なるテーマの原稿を参考に、英文カードを付け足したり並べ替えたりするなど、KJ法的な発想を取り入れて原稿を完成し、全体の前でスピーチ活動を行うことは、考えや意見、気持ちに注目でき、自信をもって英語で自分の思いを伝えようとするために有効であったか。	・観察（活動の様子） ・アドバイスシート ・振り返りシート

研究の展開

1 題材の考察と目標

題材の考察	本題材では、クリスマスについての英文資料を参考にして、グループ内で個々がスピーチで伝えたい内容を小さな間違いを恐れず一つずつの英文でカードに書き、そのカードを寄せ集めてスピーチ原稿を作成し、発表する活動を行う。基本と応用の過程ではグループ内で、発展の過程では自分の考えをより明確にするために個々が、英文カードを付け足したり並べ替えたりしながら原稿を仕上げ、発表する。原稿を仲間とともに検討し、まとめ上げるという活動を経て、発表においても自信をもって、自分の思いを伝えようとする態度を育てることができると考える。言語材料としては、「～すること」と対象となる行為を言うときの表現である動名詞、「～に…を する」と人に何かをする時の表現である第4文型、人やもの様子を表現できる第2文型を学ぶことができる。
-------	---

目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・クリスマスを中心に、英文カードを並べたり付け足したりして作成したスピーチ原稿を、自信をもって自分の考えや意見、気持ちを表現しながらスピーチしようとする。 ・動名詞、第2文型、第4文型を理解し、正しく用いることができる。
--------	---

2 評価規準（資料編参照）

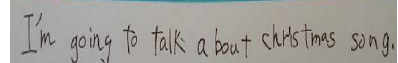
3 指導計画（資料編参照）

研究の結果と考察

1 基本の過程において、クリスマスに関する英文資料を参考にして、グループで英文カードを並べるなどのKJ法的な発想を取り入れて原稿を作成し、テーマの異なるペアの生徒同士でスピーチ活動を行うことは、良い点や課題に気付き、英語でスピーチすることに興味をもって取り組むために有効であったか

まず、「クリスマスと言えば～！」の～に当てはまる単語をカードに書いて黒板に貼り、全員で考えて関連する単語を4つにグループ化した。それらにタイトルを付け、同じタイトルになった生徒でスピーチ原稿を作成することを伝えると、生徒は興味をもった様子であった。A男は“Christmas song”を、B男は“snow”をカードに書き、それぞれ“Christmas song”、“snow and cake”というタイトルのグループになった。他に“Cristmas tree”“Santa Clause”というタイトルのグループができ、どのグループも相談しながら活発に英文カード作りやカード並べを行う姿が見られた。

資料1 始まりの表現



A男はグループをリードし、仲間からの質問にも的確に答えていた。仲間の一人が“Christmas songs are very nice.”という英文カードを作成したので、A男はスピーチ表現集にあった“I think”を前につけることを提案した。そして教科書で学んだばかりの第4文型を用いて、“Christmas songs are giving people dream and joy.”という文を作り、“because”で二つの英文カードをつないだ。次に、仲間が日本語でカードに書いた、「クリスマスに雪が降るとホワイトクリスマスといわれます」という文を英文にすることになり、「いわれます」という表現に苦心していたので、未習であった受け身の表現を教えたところ、「そうなんだ」と感心した様子であった。他にも仲間の英文カードを見て、「ここは“there are～”を使うといい」など、語句を付け足したり書き換えたりしながら仲間とともに英文カードを並べて原稿を作成していた。スピーチの形にするのに、仲間の一人が表現集を見て終わりの表現を書いたので、A男は表現集から始まりの表現を引用した(資料1)。スピーチ発表では、“Santa Clause”をタイトルにもつ生徒とペアになり、原稿を見ながら少し恥ずかしそうな様子であったが、いつもより大きな声で発音していた。聞き手からのアドバイスシートには、「発音がよかった。他にどんなクリスマスソングがあるのか知りたい」とあり、自分の振り返りシートに「発音がうまかった。課題は、クリスマスソングについてもう少し詳しく触れるようにする」と答えた。また「疲れたが楽しかった。英語の勉強にもなった」という感想を残し、次の発表を楽しみにしていた。

B男は最初に、“I like snow.”と英文カードに書いた。しかし、他の2人がケーキのことを書いていて、うまくつながらなかったため、表現集にあった“By the way”を使ってつなげることにした。それでも「『ところで僕は雪が好きです』は突然すぎる」という仲間の指摘を受け、“By the way, do you like snow? I like snow.”と先に疑問文をもってくることにした。しばらくたっても次の英文カードができなかったため、「雪が降るとどうなるの」と尋ねると、「楽しい」と答えた。さらに“when”を使って表現できることを伝えると、仲間聞いて、“When there is a lot of snow, it is very fun.”という英文を作った。B男の発表相手も“Santa Clause”がタイトルであり、お互い楽しそうに発表していた。発表後、アドバイスシートには「内容はわかりやすかったが、なぜケーキと雪が好きなのか知りたい」とあり、振り返りシート

では、「グループで作ったから自信をもって発表できた。次回は、ケーキと雪が好きな理由を入れたい」と答えた。

以上のことから、基本の過程において、KJ法的な発想を取り入れて原稿を作成しスピーチ活動を行うことは、英語でスピーチすることに興味をもって取り組むために有効であったと考える。

2 応用の過程において、内容をより充実させるために、英文カードを付け足すなどのKJ法的な発想を取り入れて原稿を改善し、テーマの異なるグループの生徒同士でスピーチ活動を行うことは、伝えたい内容や表現方法に着目でき、英語でスピーチすることに意欲をもって取り組むために有効であったか応用の過程では、グループで原稿の改善を行った後、それぞれのグループから集まった4人で発表し評価し合った。原稿改善には、基本の過程で用いたアドバイスシートを参考にした。そこには、聞き手からの「なぜそう思うのか聞きたい」「具体的な例を挙げてほしい」「抑揚をつけて言った方がよい」など、タイトルが異なるがゆえの質問やアドバイスが書かれてあり、各グループで再度内容を考え、英文カードの付足しを行った(資料2)。発表は人数は増えたものの、2回目ということからか、全体的に和やかな雰囲気で行われた。

資料2 カードの並べ替え



A男は「他のクリスマスソングについても書こう」とグループに呼びかけ、「What Christmas song do you know?」という英文カードを新たに作った。すると仲間が“By the way”を前につけることを提案した。またもう一人が「マライア・キャリーを入れたい」と言ったので、3人で考えた結果、前回作った“There are many Christmas songs in the world.”のカードの後ろに“There are Christmas songs like ‘All I want for Christmas is you’ by Mariah Carey in foreign countries.”という英文カードを付け加えることにした。発表は、つまらずにでき、聞き手のアドバイスシートには、「クリスマスソングは夢と喜びを与えてくれることや、色々なクリスマスソングがあることがわかった。笑顔がよかった」などと書かれた。振り返りシート

では、「聞き手に山下達郎について伝わるように意識した。最後となる次の発表では、自分の考えをもっと入れたい」という感想を残した。

B男は、仲間の2人がケーキの話題で英文カードを作っているときにも一人、雪の話題を考えていた。雪が好きな理由として、“because snow is beautiful.”というカードを作ったり、「『雪が降らない』はどういうんですか」と尋ねてきて、“but in Australia, they have no snow.”と書いて日本のクリスマスと比較したりした。しかしケーキの話題とうまくつながらなかったため、仲間の一人が“I can imagine snow and cake for Christmas.”というカードを作り、その後にB男の書いた雪の英文カードを並べることにした。雪とケーキの二つの話題がまんべんなく入ったので、B男は「まとめ方がわからない」と言っていたが、仲間とともに前回の終わり方とは違う英文を考え出した。その結果、“So I like Christmas. Do you like Christmas? Let's enjoy Christmas!!”として締めくくった。原稿が仕上がったときには、仲間とともに笑みがこぼれていた。発表はにこやかな表情で行い、聞き手からのアドバイスシートには、「いろんなクリスマスケーキがあることやケーキの起源、雪が好きな理由がわかった。聞き手を意識した発表だった」と書かれた。振り返りシートでは「ケーキと雪についての自分の気持ちを伝えるのに、笑顔で発表するようにした。最後の発表では、文をもっと長くして、クリスマスが楽しいことを伝えたい」と書いた。

以上のことから、応用の過程において、KJ法的な発想を取り入れて原稿を改善しスピーチ活動を行うことは、英語でスピーチすることに意欲をもって取り組むために有効であったと考える。

3 発展の過程において、内容を深め、クリスマスについての自分の考えを明確にするために、他グループの異なるテーマの原稿を参考にして、英文カードを付け足したり並べ替えたりするなど、KJ法的な発想を取り入れて原稿を完成し、全体の前でスピーチ活動を行うことは、考えや意見、気持ちに注目

でき、自信をもって英語で自分の思いを伝えようとするために有効であったか

発展の過程では、他グループの原稿を参考にすることで、自分の考えや意見を明確にし、原稿作成に活かしていくことを伝えた。他グループの原稿から似たような表現を用いたり、必要に応じてそのまま引用したりする生徒が見られた。さらにアドバイスシートをもとに、個々で英文カードを付け足し原稿を仕上げ、一人一人が全体の前で発表した。

最後の原稿作りということで、A男は自分の文にこだわり、新たな英文カード作りに懸命であった。「歌がそれほど好きではなく歌手もあまり知らないこと」などを付け加えながら、「山下達郎は特別でCDを聞いている。理由は母親が山下達郎が好きでCDをいくつか持っているから」などの内容を書いた。そして、最後に“I want to listen to other Christmas songs too.”という英文カードを付け足した。聞くと、「山下達郎がきっかけで他のクリスマスソングにも興味をもったから」という理由であった。個人的な内容を盛り込むことで、自分らしさを表現したかったようである(資料3)。全体の前で緊張したのか、少し早口の発表であったが、聞き手からのアドバイスシートで「お母さんも山下達郎が好きなのがわかった。山下達郎について熱く語っていた」と書かれ、振り返りシートでは、「一人で原稿を作ったので苦労したが、文がうまくできたので、自信をもって山下達郎について伝えられたと思う」と答えた。

資料3 A男の書いた英文

course, I don't know the singer so
But I like...
because, My mother likes Yamashita
She has some Yamashita-Tatsuro

B男は他グループの原稿を見て、タイトルを“snow and cake”から“Christmas”に変え、新たにサンタクロースの話題を盛り込んだ。“I like Santa.”という文の後に、「サンタがいるとやさしくなれる」と入れようとして、英語での表現を尋ねてきた。また、話題をサンタクロースに移すために、前回仲間とともに作った英文を思い出し、問いかけの文、“By the way, do you like Santa?”とカードに書いて並べた。最後は“Happy Christmas.”で締めくくった(資料4)。発表は落ち着いてでき、簡潔な文が多く親しみやすい内容だったことから、アドバイスシートでは「筋道の通ったまとめ方だった。共感した」と書かれ、振り返りシートでは「サンタクロースの話題を追加して、クリスマスが楽しいことを聞き手にうまく伝えられたと思う」という感想を残した。

資料4 B男の書いた英文

By the way, do you like santa?
I like santa.
when there is santa he is very kind.
Happy christmas.

以上のことから、発展の過程において、KJ法的な発想を取り入れて原稿を完成しスピーチ活動を行うことは、自信をもって英語で自分の思いを伝えようとするために有効であったと考える。

研究のまとめと今後の課題

仲間とともに考えを出し合って英文カードを作成し、相談しつつカードを並べる活動は、スピーチ原稿を作成するためだけでなく、自信をもって発表するためにも有効であったと考える。

3回にわたる段階的なスピーチ活動は、回を重ねるごとに発音やイントネーションに気を付けたり、自分の考えや意見、気持ちを伝えようとするなど、自分らしい発表をするために有効であったと考える。

語彙力、構文力不足のため、自分が意図することを英語で表現できない場面が見られた。言いたいことを自力でスピーチ原稿に入れられるように、授業でスピーチ特有の表現を取り入れたり、語彙力、構文力を高められたりする活動を積み重ねていきたいと考える。

参考文献

- ・川喜田 二郎 著 『発想法』 中公新書(1967)
- ・川喜田 二郎 著 『続・発想法』 中公新書(1970)

【資料編】

* 研究の内容と方法 (2) KJ法的な発想を取り入れたスピーチ活動について

研究の展開

2 評価規準

3 指導計画(全10時間計画)

	ア．コミュニケーションの 関心・意欲・態度	イ．表現の能力	ウ．理解の能力	エ．言語や文化についての 知識・理解
聞く こ と	(言語活動への取り組み) 教師の説明や仲間のスピーチに興味を持って聞くこととする。		(正確な聞き取り) CDや教師の英語を聞いて本文の意味がわかる。 (適切な聞き取り) 仲間のスピーチを理解し、評価シートを用いて適切に評価することができる。	(言語についての知識) 例文を聞いて動名詞、第2、第4文型の使い方がわかる。 (文化についての理解) テーマの異なるスピーチを聞きクリスマスについて広く理解する。
話す こ と	(言語活動への取り組み) 教科書本文についての感想や作成したスピーチ原稿を意欲的に発表しようとしている。	(正確な発話) 発音、イントネーション、リズムなどに気を付けて単語や文の発音練習できる。 (適切な音読) スピーチ原稿を自分らしく思いを込めて表現することができる。	(適切な音読) 原稿の内容を自分なりに理解し、内容に合ったスピーチ発表ができる。	(言語についての知識) 動名詞や第2、第4文型を用いて自分や身の周りのことを述べるができる。 (文化についての理解) クリスマスに関する事柄について理解しスピーチできる。
読む こ と	(言語活動への取り組み) クリスマスに関する英文資料に興味をもって読むとしている。	(適切な音読) スピーチ原稿を自分の思いを込めて音読練習できる。	(正確な読み取り) 動名詞や第2、第4文型を含んだ本文の意味が正しく言える。 (適切な読み取り) 他グループの原稿を読	(言語についての知識) 動名詞や第2、第4文型を含んだ英文を正しく日本語に訳すことができる。 (文化についての理解) 英文資料を読んでクリ

			んで内容を理解できる。	スマスに関する事柄について理解できる。
書くこと	(コミュニケーションの継続) 題材にしたい単語や原稿作りのための英文をカードに進んで書こうとしている。	(適切な筆記) クリスマスについての自分の思いを英文にしてカードに書くことができる。	(適切な書き取り) 英文資料や他グループの原稿を理解し必要な部分を自分のスピーチに生かせるように書くことができる。	(言語についての知識) 動名詞や第2、第4文型を用いて正しく英文を書くことができる。 (文化についての理解) 英文資料や他グループの原稿を理解しクリスマスに関する事柄について適する英文にすることができる。

過程	時間	学習活動	支援及び指導上の留意点	評価項目 【主となる観点】
	1	・動名詞を学習する。	・動名詞の例文を多く提示しワークシートで練習できるようにする。	・動名詞を用いて英文を作ったり日本語にしたりすることができる。【エ】
	2	・ § 1 の新出単語、本文の意味を確認し、音読練習する。 ・第4文型を学習する。	・フラッシュカード、ピクチャーカードを用いて視覚的にも支援する。 ・第4文型の代表的な動詞を挙げて例文を提示し、ワークシートで練習できるようにする。	・動名詞を含んだ本文の意味を理解し適切に音読することができる。【ウ】 ・第4文型を用いて正しく英文を作ったり日本語にしたりすることができる。【エ】
	3	・ § 2 の新出単語、本文の意味を確認し音読練習する。 ・第2文型を学習する。	・フラッシュカード、ピクチャーカードを用いて理解を支援する。 ・第2文型の例文を多く提示しワークシートを用いて練習できるようにする。	・第4文型を含んだ本文の意味を理解し適切に音読することができる。【ウ】 ・第2文型を用いて正しく英文を作ったり日本語にしたりすることができる。【エ】
	4	・ § 3 の新出単語、本文の意味を確認し音読練習する。 ・ Check&Use(単元末まとめページ)を学習する。 ・単元のまとめをする。	・本文を確認した後、背景にある実話を紹介しクリスマスのスピーチに生かせるようにする。 ・リスニング問題で動名詞、第2、第4文型の理解を確認し、補足説明する。 ・本文の内容について感想を述べ合い発表に生かせるようにする。	・第2文型を含んだ本文の意味を理解し適切に音読することができる。【ウ】 ・動名詞、第2、第4文型を含む英文を聞いて正しく答えることができる。【ウ】
基	5	・クリスマスについての話を聞く。	・クリスマスについてスピーチすることを伝え、ALTとJTEがクリスマスの思い出や自分の考え、意見を話すことで題材のヒントとなるようにする。	・本文について感じたことを進んで発表している。【ア】 ・クリスマスの話を中心に聞き、スピーチの題材を進んで考えようとしている。【ア】
見	1	・同じような題材をもつ生徒でグループになる。	・題材にしたいことを単語でカードに書くように伝え、似たようなものを全員でグループ化できるように黒板に貼る。	・単語1語で題材にしたいことを書き表し、黒板のカードを積極的にグループ化しようとしている。【ア】
通	1	・グループで英文カードを用いてスピーチ原稿作りを始める。	・英文資料とスピーチ表現集を配布してカードに英文を書く作業を支援する。	・スピーチで伝えたいことを資料や表現集を参考にして英文にし、できるだけたくさんカードを作ることができる。【ア、ウ、エ】
	6	・スピーチの練習をする。	・発音、声の調子など表現も大切であることを伝え、モデルを示したりする。	・発音やイントネーションに注意しながら発表の練習をしている。【イ】
	1	・テーマの異なる生徒と1組になりスピーチし評価し合う。	・評価シートの使い方について説明し、緊張しないで発表できる雰囲気作りに努める。	・恥ずかしがらずにスピーチし、相手のスピーチを熱心に聞き評価シートに適切に評価することができる。【ア、ウ】
応	7	・グループで英文カードを用いて原稿を改善する。	・原稿改善のために表現集を配布し、評価シートとともに参考にすることを伝え、不足部分を指摘することで英文カードの付け足しや並べ替え作業を支援する。	・評価シートから課題を見出したり表現集を参考にしたりして、英文カードの付け足しや並べ替え作業を行うことで、原稿を改善することができる。【ア】
	8	・グループで発表練習をする。	・伝えたい内容を意識して表現できるように助言する。	・スピーチで伝えたいことを聞き手にわかってもらえるように、表現を工夫しようとしている。【イ】
見	通	・各グループから生徒たちが	・評価シートを配布するとともに	・内容を意識して表現を工夫しながら発表

し 2 】	集まってスピーチし評価し合う。	に、伝えたい内容や自分の考え、意見、気持ちを表現できるように伝える。	し、評価シート を用いてお互いに評価できる。【ウ 】
発 【 見 通 し 展 3 】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個々が自分の思いを入れられるように英文カードを用いて原稿作りをする。 ・ スピーチ練習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の思いを明確にして原稿に入れられるように表現集 と他グループの原稿を配布し、評価シート とともに参考にしながら原稿改善できるようにする。 ・ 自分の思いが入るように、表情や声の調子、ジェスチャーを入れるように伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の思いを入れながら筋道の通った文章にまとめることができる。【ア 、イ 、ウ 】 ・ 伝えたいことが十分に伝えられるように表現力豊かにスピーチしようとしている。【イ 】
10. 【 見 通 し 3 】	<ul style="list-style-type: none"> ・ グループ内でスピーチし評価し合う。 ・ 代表者が全体の前で発表し評価し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 評価シート を配布しながら、自分らしさを表現したスピーチをするように助言する。 ・ 聞き手の感動、共感を呼べるように体全体で表現できるように助言する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分らしさを大切にしたスピーチができ、評価シート を用いてお互いに評価し合える。【イ 、ウ 】 ・ 自分の思いを入れ、聞き手に伝わるようにスピーチできる。【イ 、エ 】